

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 3	公益目的事業 11
主査名	松浦常夫 実践女子大学教授	
研究テーマ	歩行目的と散歩行動に関する交通心理学的研究	
研究の目的： <p>歩行行動は、移動（交通）を目的とした実用的な歩行行動と移動以外を目的とした歩行行動（散歩等）に分かれる。前者の実用的歩行の分類は、パーソントリップ調査や交通事故統計やその他の研究で比較的多く調べられている。しかし、後者の散歩等の歩行目的の分類はあまり詳しく調べられていない。そこで本研究では様々なタイプの歩行の実行頻度を聞き、それを因子分析することにより、歩行の分類を試みる。</p> <p>通勤や買い物歩行にも散歩的要素が含まれていることもあるし、逆に散歩中に用事を行うこともあるというように、実際には歩行は明確には実用的歩行と散歩等に二分されない。また、上記で得られるような歩行タイプごとに散歩の度合いは異なるだろう。そこで本研究では、実際におこなっている散歩的な歩行を1つあげコース図として記入してもらい、その歩行の形態や散歩度等を聞き、散歩度の高い歩行の特徴を明らかにする。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>2つの調査を質問紙法により行うことを決め、その予備調査を学生に対しておこなった。それをもとに、上期には調査1と調査2の質問紙を作成した。調査1は、歩行目的と歩行者属性・行動についてのアンケートで、調査2は散歩コース図の作成とそれに関する質問からなるアンケートである。また、実施依頼機関であるシルバー人材センターと民間調査機関の候補を選定した。</p> <p>10月から年内にかけては、シルバー人材センターと民間調査機関を決め、2種類の調査を実施した。歩行目的調査は、インターネット調査会社のドウ・ハウスに依頼しておこなった。散歩行動調査は、焼津シルバー人材センターと豊田市交通安全学習センターに調査依頼した。1月から3月にかけては、データを整理し、結果を分析した。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>歩行目的分類調査では</p> <ol style="list-style-type: none">歩行しながら用事をおこなう歩行 1、自然観照歩行 2、私用のための交通手段歩行 3、健康運動意識歩行 4、物見遊山町歩行 5、会社学校への交通手段歩行 6 の6因子が得られた。この6因子は更に、3と6（実用的歩行）、1と5（ながら歩行）、2と4（散歩）の3つに大分類できた。 <p>散歩コース図調査では</p> <ol style="list-style-type: none">歩行は散歩度が0%のものから100%のものに分けられた。散歩度が高い歩行は、周遊型の経路、目的地がない、経路に遊歩道等を含む、所要時間が長い、伴侶との歩行といった特徴が見られた。		
今後の課題： <p>散歩度の高い歩行の特徴を、他の客観的指標および解放感やのんびりや期待といった心理的側面から検討することが課題の1つである。</p>		